参考資料···Clarity 版 ISA、報告書、及び主な現行の監査実務指針の比較表

- 注1:本表は、監査基準委員会の新起草方針に基づく改正版をご理解頂く際に参考に資するために、便宜的に作成した参考資料であって、報告書の一部を構成するものではなく、また、正式な手続を経て取りまとめたものでもない旨ご留意ください。 注2:主な現行の監査実務指針については、Clarity版ISAに概ね相当するテーマを扱う監査実務指針を選定し、さらに概ね対応する項目のみを抽出しております。したがいまして、欄が空白であることをもって、ただちに我が国の現行の監査実務指針に規定が存在しないことを意味する訳ではなく、他の監査実務指針に記載がある場合もある旨ご留意ください。
- 注3:Clarity版ISAに付されている脚注や他の基準への参照は基本的に報告書では含めていない点にご留意ください。
- 注4:「主な現行の監査実務指針」の列で現行の監査実務指針の項が重複する場合には、最初に登場する項目又は主たる項目のみに当該項の文書を記載し、2回目以降に登場するときにはカッコを付して「(現行〇項。なお、該当文章は報告書の 項の右列)」と記載するにとどめております。

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
ISA 500, Audit Evidence		監査基準委員会報告書 500		監査基準委員会報告書第 31 号
			E証拠	監査証拠
				平成 17 年 3 月 31 日
				改正 平成 18 年 3 月 30 日
			平成 23 年 12 月 22 日	1/30 10 1 1 30 10 11
			日本公認会計士協会	(また、一部に、監査基準委員会報告書第9号
			監査基準委員会	「試査」(平成9年2月 17 日、改正平成 14
			(報告書:第 46 号)	年 11 月 18 日) と比較した箇所があり、当該
				箇所には冒頭に「[監査基準委員会報告書第9
				号]」と表示している。)
Introduction	Application and Other Explanatory Material	《I 本報告書の範囲及び目的》	《皿 適用指針》	311 EXALUCT 5.)
Scope of this ISA		《1. 本報告書の範囲》	#— ************************************	
This International Standard on Auditing (ISA)		1. 本報告書は、財務諸表監査における監査証		1. 本報告書は、財務諸表の監査における監査
explains what constitutes audit evidence in an audit		拠の構成内容について説明するとともに、意		証拠、その十分性と適切性及び監査証拠を入
of financial statements, and deals with the auditor's		見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠		手するための監査手続に関する実務上の指針
responsibility to design and perform audit		を入手できるように監査手続を立案し実施す		を提供するものである。
procedures to obtain sufficient appropriate audit		ることに関する実務上の指針を提供するもの		2. 監査人は、十分かつ適切な監査証拠を入手
evidence to be able to draw reasonable conclusions		である。		して、監査意見を形成するに足る合理的な基
on which to base the auditor's opinion.				でく、 <u>監査</u> 息兄を形成するに定る古壁的な基礎を得なければならない。
2. This ISA is applicable to all the audit evidence		0 ナ却生まは、歴末の現在できてしたようで		焼を付なりない。
obtained during the course of the audit. Other ISAs		2. 本報告書は、監査の過程で入手したすべて		
deal with specific aspects of the audit (for example,		の監査証拠に適用される。その他の監査基準		
ISA 315 ₁), the audit evidence to be obtained in		委員会報告書等では、監査の特定の側面(例		
relation to a particular topic (for example, ISA 570		えば、監査基準委員会報告書315「企業及び		
2), specific procedures to obtain audit evidence (for		企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リス		
example, ISA 520 ₃), and the evaluation of whether		クの識別と評価」、ある特定の事項に関して		
sufficient appropriate audit evidence has been		入手すべき監査証拠(例えば、監査基準委員		
obtained (ISA 2004 and ISA 3305).		会報告書 570「継続企業」)、監査証拠を入		
¹ ISA 315, "Identifying and Assessing the Risks		手するための特定の手続(例えば、監査基準		
of Material Misstatement through		委員会報告書 520「分析的手続」)、又は十		
Understanding the Entity and Its		分かつ適切な監査証拠が入手されたかどうか		
Environment."		の評価(監査基準委員会報告書 200「財務諸		
² ISA 570, "Going Concern."		表監査における総括的な目的」及び同 330		
3 ISA 520, "Analytical Procedures."		「評価したリスクに対応する監査人の手		
⁴ ISA 200, "Overall Objectives of the		続」)に関する実務上の指針を提供してい		
Independent Auditor and the Conduct of an		る。		
Audit in Accordance with International				
Standards on Auditing."				
⁵ ISA 330, "The Auditor's Responses to Assessed				
Risks."				
Objective		《2. 本報告書の目的》		
4. The objective of the auditor is to design		3. 本報告書における監査人の目的は、監査人		
and perform audit procedures in such a way		が、結論を導き、意見表明の基礎となる十分		
as to enable the auditor to obtain sufficient		かつ適切な監査証拠を入手できるように監査		
appropriate audit evidence to be able to draw		手続を立案し実施することである。		
reasonable conclusions on which to base the				
auditor's opinion.				
Definitions		《3.定義》		

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
5. For purposes of the ISAs, the following		4. 本報告書における用語の定義は、以下のと		
terms have the meanings attributed below:		おりとする。		
(a) Accounting records – The records of initial accounting entries and supporting		(1)「会計記録」一企業が作成した取引や会計事		4. 会計記録には、一般的に、起票や入力デー
records, such as checks and records of		象の記録とその裏付けとなる記録をいう。取		タとその裏付けとなる記録が含まれる。例え
electronic fund transfers; invoices;		引を認識した記録(起票)とその裏付けとな		ば、小切手や電信送金票、請求書、契約書、
contracts; the general and subsidiary		る記録(例えば、小切手、電信送金票、請求		総勘定元帳、補助元帳、仕訳帳、仕訳帳に記 帳されない財務諸表に対するその他の修正、
ledgers, journal entries and other		書、契約書等)や、総勘定元帳、補助元帳、 仕訳帳、仕訳帳に記帳されない財務諸表に対		及び原価配分・計算・調整・開示を裏付ける
adjustments to the financial statements		するその他の修正、及び原価配分・計算・調		及い原画配力・計算・調金・囲小を表的りる ワークシートやスプレッドシートが含まれ
that are not reflected in journal entries; and records such as work sheets and		整・開示を裏付けるワークシートやスプレッ		る。会計記録の記帳は、多くの場合、電子媒
spreadsheets supporting cost allocations,		ドシートなどの記録が含まれる。		体で開始、記録、処理及び報告される。さら
computations, reconciliations and		The state of the s		に、会計記録は、業務システムとデータを共
disclosures.				有する、企業の財務報告、事業経営及び法規
				の遵守という内部統制のすべての目的を支え
				る統合的なシステムの一部であることもあ
				る。
(b) Appropriateness (of audit evidence) –		(4)「(監査証拠の)適切性」―監査証拠の質的		(現行7項。なお、該当文章は報告書の A4 項の
The measure of the quality of audit evidence; that is, its relevance and its		尺度をいう。すなわち、意見表明の基礎とな		右列)
reliability in providing support for the		る監査証拠の適合性と証明力をいう。		
conclusions on which the auditor's opinion				
is based.				
(c) Audit evidence – Information used by the		(2)「監査証拠」一監査人が意見表明の基礎とな		(現行3項。なお、該当文章は報告書のA1項の
auditor in arriving at the conclusions on which the auditor's opinion is based.		る個々の結論を導くために利用する情報をい		右列)
Audit evidence includes both information		う。監査証拠は、財務諸表の基礎となる会計 記録に含まれる情報及びその他の情報からな		
contained in the accounting records		記跡に含まれる情報及いその他の情報からな る。		
underlying the financial statements and		చం		
other information. (d) Management's expert – An individual or		(5) 「経営者の利用する専門家」 - 企業が財務諸		
organization possessing expertise in a		(a) 「経営有の利用する専門家」 一定業が財務語表を作成するに当たって、会計又は監査以外		
field other than accounting or auditing,		の分野において専門知識を有する個人又は組		
whose work in that field is used by the		織の業務を利用する場合の当該専門知識を有		
entity to assist the entity in preparing the financial statements.		する個人又は組織をいう。		
(e) Sufficiency (of audit evidence) – The		(3)「(監査証拠の)十分性」-監査証拠での量		(現行7項。なお、該当文章は報告書の A4 項の
measure of the quantity of audit evidence.		的尺度をいう。必要とされる監査証拠の量		右列)
The quantity of the audit evidence needed		は、評価した重要な虚偽表示リスクの程度及		
is affected by the auditor's assessment of the risks of material misstatement and		び監査証拠の質によって影響を受ける。		
also by the quality of such audit evidence.				
Requirements		《Ⅱ 要求事項》		
Sufficient Appropriate Audit Evidence	Sufficient Appropriate Audit Evidence (Ref:	《1.十分かつ適切な監査証拠》	《1. 十分かつ適切な監査証拠》(第5項参	
	Para. 6)		照)	
6. The auditor shall design and perform audit procedures that are appropriate in the	A1. Audit evidence is necessary to support the auditor's opinion and report. It is cumulative	5. 監査人は、十分かつ適切な監査証拠を入手	A1. 監査証拠は、監査意見及び監査報告書を裏	3. 監査証拠は、監査人が監査意見を形成する
circumstances for the purpose of obtaining	in nature and is primarily obtained from	するために、個々の状況において適切な監査 手続を立案し実施しなければならない。(A1	付けるために必要である。監査証拠は、累積 的な性質のものであり、主として監査の過程	3. 監査証拠は、監査人が監査息兄を形成する に足る合理的な基礎を得るために利用するす
sufficient appropriate audit evidence. (Ref:	audit procedures performed during the course	子杭を立系し夫施しなりればならない。 (AI 項から A25 項参照)	で実施した監査手続から入手する。しかしな	べての情報であり、財務諸表の基礎となる会
Para. A1-A25)	of the audit. It may, however, also include	NA DITTO NOM	がら、監査証拠は、過年度の監査において入	計記録に含まれる情報及びその他の情報から
	information obtained from other sources such		手した情報 (監査基準委員会報告書 315 第 8	なる。監査人は、存在する可能性のあるすべ
	as previous audits (provided the auditor has determined whether changes have occurred		項に記載のとおり、監査人が当年度の監査に	ての情報を検討するわけではない(第14項参
	since the previous audit that may affect its		影響を与える変化が生じていないかどうかを	照)。監査証拠は、様々な手続の実施により
	relevance to the current audit 6) or a firm's		判断した場合)、又は監査契約の新規の締結	累積するものであり、当年度の監査の過程で 実施した監本モ結から入手した監本証拠だけ
	quality control procedures for client		及び更新に関する監査事務所の品質管理手続 において入手した情報など、その他の情報源	実施した監査手続から入手した監査証拠だけ でなく、過年度の監査において入手した情報
	acceptance and continuance. In addition to other sources inside and outside the entity,		において入手した情報など、その他の情報源 から入手した情報も含むことがある。	や監査契約の新規の締結・更新に関する手続
	the entity's accounting records are an		企業内外のその他の情報源に加えて、企業	等のその他の情報源から入手した監査証拠も
	important source of audit evidence. Also,		の会計記録は監査証拠として重要な情報源で	含むことがある。
	information that may be used as audit		ある。また、監査証拠として利用する情報	
	evidence may have been prepared using the		は、経営者の利用する専門家の業務により作	
	work of a management's expert. Audit evidence comprises both information that		成されることがある。監査証拠は、アサーシ	
	oriacine comprises bom miorination mat			

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	supports and corroborates management's assertions, and any information that contradicts such assertions. In addition, in some cases the absence of information (for example, management's refusal to provide a requested representation) is used by the auditor, and therefore, also constitutes audit evidence.		ョンを裏付ける情報と矛盾する情報の両方から構成される。さらに、情報がないことそれ自体が監査証拠となる場合(例えば、依頼した陳述を経営者が拒んだ場合)がある。	
	6 ISA 315, paragraph 9. A2. Most of the auditor 's work in forming the auditor 's opinion consists of obtaining and evaluating audit evidence. Audit procedures to obtain audit evidence can include inspection, observation, confirmation, recalculation, reperformance and analytical procedures, often in some combination, in addition to inquiry. Although inquiry may provide important audit evidence, and may even produce evidence of a misstatement, inquiry alone ordinarily does not provide sufficient audit evidence of the absence of a material misstatement at the assertion level,		A2. 監査意見の形成における監査人の作業のほとんどは、監査証拠を入手し評価することからなる。監査証拠を入手する監査手続には、質問に加え、閲覧、観察、確認、再計算、再実施及び分析的手続があり、多くの場合はそれらを組み合わせて実施する。質問は、重要な監査証拠を提供することがあり、虚偽表示の証拠を提供する可能性もあるが、通常、質問のみでは、アサーション・レベルの重要な虚偽表示がないこと又は内部統制の運用状況の有効性について十分な監査証拠を提供しない。	32. 監査人は、十分かつ適切な監査証拠を入手するために、質問に追加して他の監査手続を実施する。通常、質問のみでは、財務諸表項目レベルの重要な虚偽の表示を発見するための十分かつ適切な監査証拠を入手できない。さらに、質問のみでは内部統制が有効に運用されているかどうかを確かめるには十分ではない。
	nor of the operating effectiveness of controls. A3. As explained in ISA 2007 reasonable assurance is obtained when the auditor has obtained sufficient appropriate audit evidence to reduce audit risk (i.e., the risk that the auditor expresses an inappropriate opinion when the financial statements are materially misstated) to an acceptably low level. ISA 200, paragraph 5.		A3. 監査基準委員会報告書 200 第 5 項において 説明されているように、合理的な保証は、監 査人が、監査リスク(監査人が、財務諸表の 重要な虚偽表示を看過して誤った意見を形成 する可能性)を許容可能な低い水準に抑える ために、十分かつ適切な監査証拠を入手した 場合に得られる。	
	A4. The sufficiency and appropriateness of audit evidence are interrelated. Sufficiency is the measure of the quantity of audit evidence. The quantity of audit evidence needed is affected by the auditor's assessment of the risks of misstatement (the higher the assessed risks, the more audit evidence is likely to be required) and also by the quality of such audit evidence (the higher the quality, the less may be required). Obtaining more audit evidence, however, may not compensate for its poor quality.		A4. 監査証拠の十分性と適切性は、相互に関連する。十分性は監査証拠の量的尺度である。必要な監査証拠の量は、監査人が評価した虚偽表示リスクの程度によって影響を受け(評価したリスクの程度が高いほど、より多くの監査証拠が要求される。)、また、監査証拠の質によって影響を受ける(質が高いほど、より少ない監査証拠で済む。)。しかしながら、数多くの監査証拠を入手したとしても、監査証拠の質の低さを補完しないことがある。	7. 十分性は、監査証拠の量の問題である。適切性とは、監査証拠の質の問題、すなわち、取引、勘定残高、開示等に関連して、財務諸表項目レベルにおける経営者の主張(第15項参照)を裏付けたり、又は虚偽の表示を発見するために入手した監査証拠の量は、虚偽表示のリスクの程度によって影響を受け(リスクの程度が高いほど、より多くの監査証拠が要求される。)、また、その監査証拠の質によって影響を受ける(質が高いほど、少ない監査証拠で済む。)。したがって、監査証拠の十分性と適切性は、相互に関連する。しかしながら、通常、質の低い監査証拠を数多く入手したとしても十分かつ適切な監査証拠とはならない。
	A5. Appropriateness is the measure of the quality of audit evidence; that is, its relevance and its reliability in providing support for the conclusions on which the auditor's opinion is based. The reliability of evidence is influenced by its source and by its nature, and is dependent on the individual circumstances under which it is obtained.		A5. 適切性は監査証拠の質的尺度である。すなわち、意見表明の基礎となる監査証拠の適合性と証明力である。監査証拠の証明力は、情報源及び種類により影響を受け、入手する状況により異なる。	9. 監査証拠の証明力は、情報源、種類及び入手する状況により異なる。様々な種類の監査証拠の証明力については、一般化することはできるが、重要な例外は存在する。監査証拠が企業の外部から得られる場合でさえ、入手する状況によって情報の証明力に影響する。例えば、企業から独立した情報源から入手した監査証拠であっても、その情報源が確かでなければ、信頼できない。監査証拠の証明力は9. 監査証拠の証明力は、情報源、種類及び入手する状況により異なる。様々な種類の監査証拠の証明力については、一般化することはできるが、重要な例外は存在する。監査証拠が企業の外部から得られる場合でさえ、

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	A6. ISA 330 requires the auditor to conclude whether sufficient appropriate audit evidence has been obtained. Whether sufficient appropriate audit evidence has been obtained to reduce audit risk to an acceptably low level, and thereby enable the auditor to draw reasonable conclusions on which to base the auditor's opinion, is a matter of professional judgment. ISA 200 (Revised and Redrafted) contains discussion of such matters as the nature of audit procedures, the timeliness of financial reporting, and the balance between benefit and cost, which are relevant factors when the auditor exercises professional judgment regarding whether sufficient appropriate audit evidence has been obtained. s ISA 330, paragraph 26.		A6. 監査基準委員会報告書330第25項は、監査人が十分かつ適切な監査証拠を入手したかどうかを判断することを要求している。監査リスクを許容可能な低い水準に抑え、意見表明の基礎となる結論を導くための十分かつ適切な監査証拠を入手したかどうかは、職業的専門家としての判断に係る事項である。監査基準委員会報告書200は、監査人が十分かつ適切な監査証拠が入手されたかどうかについて職業的専門家としての判断を行う場合に関連する要因となる、監査手続の種類、財務報告の適時性及び費用と便益の比較衡量などの事項について記載している。	 入手する状況によって情報の証明力に影響する。例えば、企業から独立した情報源が確かでなければ、信頼できない。監査証拠の証明力は、例外はあるものの、一般的には次のとおりである。 ・ 企業から独立した情報源から入手した監査証拠は、内部統制が有効なときには大力が強い。 ・ 監査証拠は、内部統制が有効なときにはありが強い。 ・ 監査証拠についての観察によりので、内部統制が有効なときにはが、内部統制の運用にで、大きなとが直接入手した監査証拠、ので、関係とは、大きする監査証拠、大きする監査証拠、大きする監査証拠、大きする監査により、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな
	A7. Some audit evidence is obtained by performing audit procedures to test the accounting records, for example, through analysis and review, reperforming procedures followed in the financial reporting process, and reconciling related types and applications of the same information. Through the performance of such audit procedures, the auditor may determine that the accounting records are internally consistent and agree to the financial statements.		《(1) 監査証拠の情報源》 A7. 監査証拠には、会計記録をテストすることによって入手するものがある。例えば、分析や検討、財務報告の作成プロセスで実施されている手続の再実施、及び複数の用途に利用される同一情報の照合・調整がある。監査人は、そのような監査手続の実施を通じて、会計記録が相互に整合しており、財務諸表と合致していると判断することがある。	5. 経営者は、会計記録に基づいて財務諸表を作成する責任を有する。監査人は、会計記録をテストすることによって監査証拠を入手する。例えば、比較や分析、財務報告の作成プロセスで実施されている手続の再実施、及び複数の用途に利用される同一情報の調整がある。監査人は、監査手続の実施を通じて、会計記録が相互に整合しており、財務諸表と合致していると判断する。しかしながら、会計記録だけでは財務諸表に関する監査意見の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を得られないので、監査人は、それ以外の監査証拠を入
	A8. More assurance is ordinarily obtained from consistent audit evidence obtained from different sources or of a different nature than from items of audit evidence		A8. 複数の情報源から入手した監査証拠に矛盾がない場合又は異なる種類の監査証拠が相互に矛盾しない場合には、通常、個々に検討された監査証拠に比べ、より確かな心証が得ら	手する。 (現行 12 項。なお、該当文章は報告書の○項の 右列)

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	considered individually. For example, corroborating information obtained from a source independent of the entity may increase the assurance the auditor obtains from audit evidence that is generated internally, such as evidence existing within the accounting records, minutes of meetings, or a management representation.		れる。例えば、企業から独立した情報源から 入手した情報が、会計記録の中に存在する証 拠、議事録又は経営者による陳述など企業内 部で生成された監査証拠を裏付けている場 合、監査人はより確かな心証を得ることがあ る。	
	A9. Information from sources independent of the entity that the auditor may use as audit evidence may include confirmations from third parties, analysts' reports, and comparable data about competitors (benchmarking data).		A9. 監査人が監査証拠として利用する、企業から独立した情報源からの情報としては、第三者に対する確認、アナリストのレポート、及び同業他社とのデータ比較(ベンチマーク用のデータ)を含むことがある。	6. 監査人が監査証拠として利用するその他の情報には、議事録、第三者に対する確認状、アナリスト・レポート、同業他社とのデータ比較(ベンチマーキング)、内部統制マニュアル、さらに、質問、観察、閲覧等の監査手続から監査人が入手した情報、及び監査人の推論に当たって利用する情報や分析的手続による推定値のように監査人が展開した情報が含まれる。
	Audit Procedures for Obtaining Audit Evidence		《(2) 監査証拠入手のための監査手続》	
	A10. As required by, and explained further in, ISA 315 and ISA 330, audit evidence to draw reasonable conclusions on which to base the auditor's opinion is obtained by performing: (a) Risk assessment procedures; and (b)Further audit procedures, which comprise: (i) Tests of controls, when required by the ISAs or when the auditor has chosen to do so; and (ii) Substantive procedures, including tests of details and substantive analytical procedures.		A10. 監査基準委員会報告書 315 及び同 330 が要求し詳細に説明しているように、意見表明の基礎となる監査証拠は以下の手続を実施することによって入手する。 (1) リスク評価手続 (2) 以下により構成されるリスク対応手続監査基準委員会報告書等で要求される場合、又は監査人がその実施を選択した場合に実施する内部統制の運用評価手続詳細テスト及び分析的実証手続を含む、実証手続	
	A11. The audit procedures described in paragraphs A14-A25 below may be used as risk assessment procedures, tests of controls or substantive procedures, depending on the context in which they are applied by the auditor. As explained in ISA 330, audit evidence obtained from previous audits may, in certain circumstances, provide appropriate audit evidence where the auditor performs audit procedures to establish its continuing relevance.9		A11. 以下の A14 項から A25 項で記載されている監査手続は、監査人がそれらを適用する状況に応じて、リスク評価手続、内部統制の運用評価手続、又は実証手続として用いられることがある。監査基準委員会報告書 330 の A34 項で説明しているように、過年度の監査で入手した監査証拠は、監査人がその継続的な適合性を確かめる監査手続を実施した場合には、適切な監査証拠となることがある。	
	A12. The nature and timing of the audit procedures to be used may be affected by the fact that some of the accounting data and other information may be available only in electronic form or only at certain points or periods in time. For example, source documents, such as purchase orders and invoices, may exist only in electronic form when an entity uses electronic commerce, or may be discarded after scanning when an entity uses image processing systems to facilitate storage and reference.		A12. 実施する監査手続の種類及び時期は、ある会計データとその他の情報が電子媒体のみであるか、又はある時点若しくはある期間においてのみ利用可能であるかどうかによって影響を受ける。例えば、注文書及び請求書のような原始文書は、企業が電子商取引を利用している場合には、電子媒体でのみ存在していることがあり、また、企業が保存や照合を容易にするために画像処理システムを使用している場合には、画像読取り後に破棄されていることもある。	24. 実施する監査手続及び実施の時期は、ある会計データとその他の情報が、電子媒体のみであるか、又はある時点若しくはある期間においてのみ利用可能であるかどうかによって影響を受ける。注文書、貨物引換証、請求費及び小切手のような文書は、電子媒体に置換わることがある。例えを使用する。電子取引では、企業とその顧客又は仕入先は、インターネットのようなネットワークにコンピュータを接続し利用する。購買、出荷、請求、人金及び出金の取引は、当事者間で電子画像処理システムでは、当事者間で電子画像処理システムでは、文書は保存や照合を容易にするために電子画像に変換され、この変換後、必ずしも原本は保存されない。ある種の電子媒体の情報は、ある時点までは存在することもある。しかし、そのような情報は、フ

Clarity版 ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書	[要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
					ァイルが上書き保存されバックアップファイルがない場合には、所定の期間が経過した後では検索できない。監査人は、企業のデータ保存方針によっては、監査のために情報の保存を要請するか、又は情報が利用可能なときに監査手続を実施する必要がある。
	A13. Certain electronic information may not be retrievable after a specified period of time, for example, if files are changed and if backup files do not exist. Accordingly, the auditor may find it necessary as a result of an entity's data retention policies to request retention of some information for the auditor's review or to perform audit procedures at a time when the information is available.			A13. ある種の電子情報は、ファイルが上書き保存されバックアップ・ファイルがない場合には、所定の期間が経過した後では再現することができない。したがって、監査人は、企業のデータ保存方針によっては、監査のために情報の保存を要請するか、又は情報が利用可能なときに監査手続を実施する必要がある。	
	Inspection			《閲覧及び実査》	
	A14. Inspection involves examining records or documents, whether internal or external, in paper form, electronic form, or other media, or a physical examination of an asset. Inspection of records and documents provides audit evidence of varying degrees of reliability, depending on their nature and source and, in the case of internal records and documents, on the effectiveness of the controls over their production. An example of inspection used as a test of controls is inspection of records for evidence of authorization.			A14. 記録や文書の閲覧は、紙媒体、電子媒体又はその他の媒体による企業内外の記録や文書を確かめる監査手続であり、また、実査は資産の現物を実際に確かめる監査手続である。記録や文書の性質や情報源によって、さらに、企業内部の記録や文書の場合にはそれらの作成に係る内部統制の有効性によって、監査人が記録や文書の閲覧により入手する監査証拠の証明力は異なる。運用評価手続として実施する記録や文書の閲覧の例として、承認の有無を確かめることがある。	26. 記録や文書の閲覧は、紙媒体、電子媒体又はその他の媒体による企業内外の記録や文書を確かめる監査手続である。記録や文書の内容や情報源によって、さらに、企業内部の記録や文書の場合にはそれらの作成に係る内部統制の有効性によって、監査人が閲覧により入手する監査証拠の証明力は異なる。運用評価手続として実施する記録や文書の閲覧の例としては、承認の有無を確かめることがある。なお、記録や文書の閲覧には、証憑突合、帳簿突合等が含まれる。
	A15. Some documents represent direct audit evidence of the existence of an asset, for example, a document constituting a financial instrument such as a stock or bond. Inspection of such documents may not necessarily provide audit evidence about ownership or value. In addition, inspecting an executed contract may provide audit evidence relevant to the entity's application of accounting policies, such as revenue recognition.			A15. 文書には、株券や債券など、資産の実在性を直接に示す監査証拠を提供するものがある。そのような文書の閲覧からは、必ずしも、所有権又は評価に関する監査証拠を入手できるわけではない。さらに、契約書の閲覧により、収益認識についての会計方針の適用に関する監査証拠が得られることがある。	28. 有形資産の実査は、監査人自らが、現物を 実際に確かめる監査手続である。有形資産の 実査からは、資産の実在性に関する証明力の ある監査証拠を入手できるが、必ずしも資産 に係る権利と義務又は評価に関する監査証拠 を入手できるわけではない。通常、個々のた な卸資産の実査は、実地たな卸の立会におい て併せて実施される。
	A16. Inspection of tangible assets may provide reliable audit evidence with respect to their existence, but not necessarily about the entity's rights and obligations or the valuation of the assets. Inspection of individual inventory items may accompany the observation of inventory counting.			A16. 有形資産の実査からは、資産の実在性に関する証明力のある監査証拠を入手できるが、必ずしも資産に係る権利と義務又は評価に関する監査証拠を入手できるわけではない。 個々の棚卸資産の実査は、実施されている棚卸手続の観察とともに立会において併せて実施されることがある。 《観察》	
					00 知安心 类梦知理のプラトマのではとか。
	A17. Observation consists of looking at a process or procedure being performed by others, for example, the auditor's observation of inventory counting by the entity's personnel, or of the performance of control activities. Observation provides audit evidence about the performance of a process or procedure, but is limited to the point in time at which the observation takes place, and by the fact that the act of being observed may affect how the process or procedure is performed. See ISA 501 ₁₀ for further guidance on observation of the counting of inventory. ₁₀			A17. 観察は、他の者が実施するプロセスや手続を確かめる手続であり、例えば、企業の従業員が実施する棚卸資産の実地棚卸状況や統制活動の実施状況を監査人が観察する手続である。観察により、プロセス又は手続の実施に関する監査証拠を入手できるが、観察を行った時点に関する監査証拠に限定され、また、プロセスや手続の実施は観察されているという事実により影響を受けることがある。棚卸資産の実地棚卸状況の観察に関する詳細な指針については、監査基準委員会報告書501「特定項目の監査証拠」に記載されている。	29. 観察は、業務処理のプロセスや手続を確かめる監査手続である。観察には、施設や設備の視察、建設業における現場視察等も含まれる。観察は、運用評価手続や実証手続として実施されるとともに、リスク評価手続として実施される。観察では、プロセス又は手続の実施についての監査証拠を入手できるが、観察を行った時点のみに関する監査証拠であることや観察されているという事実により影響を受けることに留意しなくてはならない。立会は、観察の一種であり、企業が実施するたな卸資産の実地たな卸状況を確かめる監査手続である。

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	¹⁰ ISA 501, "Audit Evidence—Specific			
	Considerations for Selected Items."			
	External Confirmation		《確認》	
	A18. An external confirmation represents		A18. 確認は、紙媒体、電子媒体又はその他の媒	35. 確認は、質問の一種であり、勘定残高とそ
	audit evidence obtained by the auditor as a		体により、監査人が確認先である第三者から	の明細に関連する情報又は現在の契約条件等
	direct written response to the auditor from a		文書による回答を直接入手する監査手続であ	について、監査人が企業の取引先等の第三者
	third party (the confirming party), in paper form, or by electronic or other medium.		る。確認手続は、勘定残高とその明細に関連	に対して問い合わせを行い、その回答を直接
	External confirmation procedures		するアサーションに対して適合することが多	入手し評価する監査手続である。例えば、監
	frequently are relevant when addressing		い。しかしながら、確認は勘定残高のみに限	査人は、債務者に対して債権の直接確認を行
	assertions associated with certain account		定する必要はない。例えば、監査人は、契約 条件や企業が第三者と行った取引について確	う。 確認は、主に、勘定残高とその明細に関連
	balances and their elements. However,		認を行うことがある。また、契約が変更され	する情報について頻繁に使用されるが、これ
	external confirmations need not be		たかどうか、変更された場合には、その内容	ら以外の項目にも使用される。例えば、監査
	restricted to account balances only. For example, the auditor may request		について問い合わせることがある。確認手続	人は、契約条件や企業が第三者と行った取引
	confirmation of the terms of agreements or		は、一定の条件が付いていないこと、例え	について確認を行う。この場合、契約が変更
	transactions an entity has with third		ば、収益認識に影響する付帯契約がないこと	されたかどうか、変更されていれば、その内
	parties; the confirmation request may be		に関する監査証拠の入手にも利用される。よ	容について問い合わせる。また、確認は、一
	designed to ask if any modifications have		り詳細な指針については、監査基準委員会報	定の条件が付いていないこと、例えば、収益
	been made to the agreement and, if so, what the relevant details are. External		告書505「確認」に記載している。	認識に影響する付帯契約が付いていないこと
	confirmation procedures also are used to			に関する監査証拠の入手に利用される。
	obtain audit evidence about the absence of			
	certain conditions, for example, the absence			
	of a "side agreement" that may influence			
	revenue recognition. See ISA 505, for			
	further guidance.11 11 ISA 505, "External Confirmations."			
	Recalculation		《再計算》	
	A19. Recalculation consists of checking the		A19. 再計算は、記録や文書の計算の正確性を監	36. 再計算は、記録や文書の計算の正確性を監
	mathematical accuracy of documents or		査人自らが計算し確かめる監査手続である。	査人自らが計算し確かめる監査手続である。
	records. Recalculation may be performed		再計算は、手作業によって又はITを用いて	再計算は、例えば、企業から電子ファイルを
	manually or electronically.		実施する。	入手し、その集計の正確性について CAAT に
				よって照合する等、ITを利用することによ
				り実施する。
	Reperformance		《再実施》	
	A20. Reperformance involves the auditor's		A20. 再実施は、企業が内部統制の一環として実	
	independent execution of procedures or		施している手続又は内部統制を監査人が自ら	施している手続又は内部統制を監査人が自ら
	controls that were originally performed as part of the entity's internal control.		実施することによって確かめる手続である。	実施することによって確かめる監査手続であ
	part of the entity's internal control.			る。再実施は、手作業又は CAAT により実施
	Analytical Procedures		《分析的手続》	される。
	A21. Analytical procedures consist of		A21. 分析的手続は、監査人が財務データ相互間	38. 分析的手続は、監査人が財務データ相互間
	evaluations of financial information made		AZI. 万切の子続は、監重八か州務ノーク相互同 又は財務データ以外のデータと財務データと	スは財務データ以外のデータと財務データと
	by a study of plausible relationships among		の間に存在すると推定される関係を分析・検	の間に存在する関係を利用して推定値を算出
	both financial and non-financial data.		討することによって、財務情報を評価する監	し、推定値と財務情報を比較することによっ
	Analytical procedures also encompass the		査手続である。また、分析的手続には、他の	て財務情報を検討する監査手続である。推定
	investigation of identified fluctuations and relationships that are inconsistent with		関連情報と矛盾する、又は監査人の推定値と	値には、金額のほか、比率、傾向等が含まれ
	other relevant information or deviate		大きく乖離する変動や関係の調査も含まれ	る。また、重要な差異の調査は不可欠である
	significantly from predicted amounts. See		る。より詳細な指針については、監査基準委員会に対する。	ことに留意する。
	ISA 520 for further guidance.		員会報告書 520「分析的手続」に記載してい	
	Inquiry		る。 《質問》	
	A22. Inquiry consists of seeking information of		A22. 質問は、監査人が財務又は財務以外の分野	30. 質問は、監査人が経営者、従業員又は外部
	knowledgeable persons, both financial and		に精通している企業内外の関係者に情報を求	の関係者に問い合わせて、説明又は回答を求
	nonfinancial, within the entity or outside		める監査手続である。質問は、質問以外の監	める監査手続である。質問は、監査の全過程
	the entity. Inquiry is used extensively throughout the audit in addition to other		査手続と組み合わせて監査の全過程で利用さ	で使用されるが、質問に対する回答のみでは
	audit procedures. Inquiries may range from		れる。質問は、公式な書面による質問から非	十分かつ適切な監査証拠となり得ないことが
	formal written inquiries to informal oral		公式な口頭による質問まで様々である。質問	多いため、質問以外の監査手続の実施により
	inquiries. Evaluating responses to inquiries		に対する回答を評価することは、質問のプロ	補完される。質問には、書面による質問と口
				_

Clarity版 ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	is an integral part of the inquiry process.		セスの不可欠な部分である。	頭による質問とがある。なお、質問に対する 回答を評価することが不可欠であることに留 意する。
	A23. Responses to inquiries may provide the auditor with information not previously possessed or with corroborative audit evidence. Alternatively, responses might provide information that differs significantly from other information that the auditor has obtained, for example, information regarding the possibility of management override of controls. In some cases, responses to inquiries provide a basis for the auditor to modify or perform additional audit procedures.		A23. 質問に対する回答から、監査人は、新たな情報又は既に入手していた監査証拠を裏付ける情報を入手することがある。また、質問に対する回答から、監査人は既に入手した情報とは大きく異なる情報、例えば、経営者による内部統制の無効化の可能性に関する情報を入手することがある。質問に対する回答によっては、監査人は実施する手続を修正することや、監査手続を追加して実施することが必要となる。	31. 監査人は、質問に対する回答から、新たな情報又は既に入手していた監査証拠を裏付ける情報を入手することがある。また、回答から、監査人が入手した他の情報とは著しく異なる情報、例えば、経営者が内部統制を無視する可能性に関する情報を入手することがある。質問に対する回答によっては、監査人は実施する手続を修正したり、監査手続を追加して実施することが必要となる。
	A24. Although corroboration of evidence obtained through inquiry is often of particular importance, in the case of inquiries about management intent, the information available to support management's intent may be limited. In these cases, understanding management's past history of carrying out its stated intentions, management's stated reasons for choosing a particular course of action, and management's ability to pursue a specific course of action may provide relevant information to corroborate the evidence obtained through inquiry.		A24. 質問を通じて入手した監査証拠を裏付けることは特に重要であるが、経営者の意思を裏付ける利用可能な情報は限定されていることがある。このような場合、経営者がその意思を実行に移した過去の実績、特定の行動方針の選択に関して経営者が説明した理由、及び特定の行動方針を遂行するための経営者の能力を理解することにより、質問により入手した証拠を裏付ける関連情報を入手できることがある。	33. 質問を通じて入手した監査証拠を裏付けることは特に重要である。経営者の意思に関連した質問に関して、経営者の意思を裏付ける方法は限定されており、経営者の意思を実行に移した過去の実績、戦略等を選択した理由、その実行可能性などから判断する。
	A25. In respect of some matters, the auditor may consider it necessary to obtain written representations from management and, where appropriate, those charged with governance to confirm responses to oral inquiries. See ISA 580 for further guidance.		A25. 監査人は、口頭による質問への回答を確認するために、経営者から文書による陳述を入手する必要があるかどうかを検討することがある。より詳細な指針については、監査基準委員会報告書580「経営者確認書」に記載している。	34. 監査人は、質問に対する口頭の回答を確認するために経営者から書面を入手する。例えば、監査人は、通常、重要な事項について質問以外の監査手続では十分かつ適切な監査証拠が入手できないか、他の監査証拠の証明力が低い場合、経営者からの書面により確認す
	12 ISA 580, "Written Representations."			ప 。
Information to Be Used as Audit Evidence	Information to Be Used as Audit Evidence	《2. 監査証拠として利用する情報》	《2. 監査証拠として利用する情報》	
information to be used as Addit Evidence	Relevance and Reliability (Ref: Para. 7)	《2.血且血液として利用する情報》	《(1) 適合性及び信頼性》(第6項参照)	
7. When designing and performing audit procedures, the auditor shall consider the relevance and reliability of the information to be used as audit evidence. (Ref: Para. A26-A33)	A26. As noted in paragraph A1, while audit evidence is primarily obtained from audit procedures performed during the course of the audit, it may also include information obtained from other sources such as, for example, previous audits, in certain circumstances, and a firm's quality control procedures for client acceptance and continuance. The quality of all audit evidence is affected by the relevance and reliability of the information upon which it is based.	6. 監査人は、監査手続を立案し実施する場合には、監査証拠として利用する情報の適合性と信頼性を考慮しなければならない。(A26項からA33項参照)	A26. A1項に記載のとおり、監査証拠は、主として監査の過程で実施した監査手続から入手するものであるが、他の情報源から入手した情報、例えば、一定の条件下における過年度の監査、及び監査契約の新規の締結及び更新に関する監査事務所の品質管理手続などで入手した情報からも入手することがある。すべての監査証拠の質は、監査証拠の基礎となる情報の適合性と信頼性により影響される。	
	Relevance		《適合性》	
	A27. Relevance deals with the logical connection with, or bearing upon, the purpose of the audit procedure and, where appropriate, the assertion under consideration. The relevance of information to be used as audit evidence may be affected by the direction of testing. For example, if the purpose of an audit procedure is to test for overstatement in the existence or valuation of accounts payable, testing the recorded accounts payable may be a		A27. 適合性は、監査手続の目的、及び適切な場合には検討中のアサーションとの論理的な関連性又は影響を扱う。監査証拠として利用する情報の適合性は、手続の目的によって影響される。例えば、監査手続の目的が買掛金の実在性又は評価の妥当性に関して過大計上の有無を確かめることである場合、帳簿に計上された買掛金を検討することが目的に適合する監査手続となることがある。一方、買掛金の網羅性に関して過小計上の有無を確かめる	

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	relevant audit procedure. On the other hand, when testing for understatement in the existence or valuation of accounts payable, testing the recorded accounts payable would not be relevant, but testing such information as subsequent disbursements, unpaid invoices, suppliers' statements, and unmatched receiving		場合、帳簿に計上された買掛金の検討は目的 に適合しておらず、期末日後の支払、未払の 請求書、仕入先の支払通知書、不一致がある 検収報告書などの情報の検討が目的に適合す ることがある。	
	reports may be relevant. A28. A given set of audit procedures may provide audit evidence that is relevant to certain assertions, but not others. For example, inspection of documents related to the collection of receivables after the period end may provide audit evidence regarding existence and valuation, but not necessarily cutoff. Similarly, obtaining audit evidence regarding a particular assertion, for example, the existence of inventory, is not a substitute for obtaining audit evidence regarding another assertion, for example, the valuation of that inventory. On the other hand, audit evidence from different sources or of a different nature may often be relevant to the same assertion.		A28. あるアサーションに適合する監査証拠を提供する監査手続は、他のアサーションに適合する監査証拠を提供しないことがある。例えば、期末日後の売掛金の回収に関連した文書の閲覧は、売掛金の期末日における実在性と評価の妥当性に関する監査証拠を提供しない。同様に、あるアサーション(例えば、棚卸資産の実在性)に関する監査証拠を入手することは、他のアサーション(例えば、棚卸資産の評価の代入手とはならない。一方、複数の情報源から入手した監査証拠や異なる種類の監査証拠が、同一のアサーションに適合する監査証拠を提供することも多い。	8. 財務諸表項目レベルにおけるある経営者の主張に適合する監査証拠を提供する監査証拠を提供する監査証拠を提供する監査証拠を提供する監査証拠を提供しないことがある。例えば、期末日閲覧は、一世のの知識をした。ののを理して、関連してのは、一世のの期間には、一世のののののののののののののののののののののののののののののののののののの
	A29. Tests of controls are designed to evaluate the operating effectiveness of controls in preventing, or detecting and correcting, material misstatements at the assertion level. Designing tests of controls to obtain relevant audit evidence includes identifying conditions (characteristics or attributes) that indicate performance of a control, and deviation conditions which indicate departures from adequate performance. The presence or absence of those conditions can then be tested by the auditor.		A29. 運用評価手続は、アサーション・レベルの 重要な虚偽表示を防止又は発見・是正する内 部統制の運用状況の有効性を評価するように 立案される。運用評価手続は、適合する監査 証拠を入手するために、内部統制の適切な運 用を示す状況(特徴又は属性)や逸脱を示す 状況を識別できるように立案される。監査人 は、こうした内部統制の運用や逸脱を示す状 況の有無を確かめて、運用評価手続を実施す る。	
	A30. Substantive procedures are designed to detect material misstatements at the assertion level. They comprise tests of details and substantive analytical procedures. Designing substantive procedures includes identifying conditions relevant to the purpose of the test that constitute a misstatement in the relevant assertion.		A30. 実証手続は、アサーション・レベルの重要な虚偽表示を発見するために立案される。実証手続は、詳細テストと分析的実証手続で構成される。実証手続は、関連するアサーションにおいて虚偽表示となる状況を識別するという手続の目的に適合するように立案される。	
	Reliability A31. The reliability of information to be used as audit evidence, and therefore of the audit evidence itself, is influenced by its source and its nature, and the circumstances under which it is obtained, including the controls over its preparation and maintenance where relevant Therefore, generalizations about the reliability of various kinds of audit evidence are subject to important		《信頼性》 A31. 監査証拠として利用する情報の信頼性ひいては監査証拠自体の証明力は、情報源及び情報の種類、並びに関連する場合には情報の作成と管理に関する内部統制を含む情報を入手する状況によって影響される。したがって、様々な種類の監査証拠の証明力については一般化することはできるが、重要な例外が存在する。監査証拠として利用する情報が企業の	

Clarity版 ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	exceptions. Even when information to be		外部から得られる場合であっても、入手する	
	used as audit evidence is obtained from		状況によって情報の信頼性に影響する。例え	
	sources external to the entity,		ば、独立した情報源から入手した監査証拠で	
	circumstances may exist that could affect its		あっても、その情報源が十分な知識を有して	
	reliability. For example, information		いない個人又は組織である場合、又は経営者	
	obtained from an independent external		の利用する専門家が客観性を欠いている場合	
	source may not be reliable if the source is		には、信頼できないことがある。監査証拠の	
	not knowledgeable, or a management's		証明力は、例外はあるものの、一般的には以	
	expert may lack objectivity. While		下のとおりである。	
	recognizing that exceptions may exist, the		・ 監査証拠の証明力は、企業から独立した	
	following generalizations about the			
	reliability of audit evidence may be useful:		情報源から入手した場合には、より強くな	
	· The reliability of audit evidence is		る。	
	increased when it is obtained from		企業内部で作成される監査証拠の証明力	
	independent sources outside the entity.		は、情報の作成と管理に関する内部統制	
	· The reliability of audit evidence that is		等、関連する内部統制が有効な場合には、	
	generated internally is increased when		より強くなる。	
	the related controls, including those over		監査人が直接入手した監査証拠(例え	
	its preparation and maintenance, imposed		ば、内部統制の運用について観察により入	
	by the entity are effective.			
	· Audit evidence obtained directly by the		手した監査証拠)は、間接的に又は推論に	
	auditor (for example, observation of the		基づいて入手する監査証拠(例えば、内部	
	application of a control) is more reliable		統制の運用について質問により入手した証	
	than audit evidence obtained indirectly or		拠)よりも、証明力が強い。	
	by inference (for example, inquiry about		・ 監査証拠は、紙媒体、電子媒体又はその	
	the application of a control).		他の媒体にかかわらず、文書化されたもの	
	· Audit evidence in documentary form,		の方が、口頭で得たものよりも、証明力が	
	whether paper, electronic, or other		強い(例えば、議事録は、会議の後の口頭	
	medium, is more reliable than evidence		による議事説明よりも証明力が強い)。	
	obtained orally (for example, a			
	contemporaneously written record of a		・原本によって提供された監査証拠は、コ	
	meeting is more reliable than a		ピーやファックス、フィルム化、デジタル	
	subsequent oral representation of the		化その他の方法で電子媒体に変換された文	
	matters discussed).		書によって提供された監査証拠よりも、証	
	· Audit evidence provided by original		明力が強い。原本以外の文書の信頼性は、	
	documents is more reliable than audit		その作成と管理に関する内部統制に依存す	
	evidence provided by photocopies or		ることがある。	
	facsimiles, or documents that have been		<u> </u>	
	filmed, digitized or otherwise transformed			
	into electronic form, the reliability of			
	which may depend on the controls over			
	their preparation and maintenance.			
	A32. ISA 520 provides further guidance	1	A32. 監査基準委員会報告書 520 第 4 項は、実証	
	regarding the reliability of data used for		手続としての分析的手続を立案する際に利用	
	purposes of designing analytical procedures		するデータの信頼性についての指針を提供し	
	as substantive procedures.13		する/ 一夕の信頼性についての指針を提供している。	
	13 ISA 520, paragraphs 5(a).		(ν ··ω ₀	
	A33. ISA 240 deals with circumstances where		A33. 監査基準委員会報告書 240「財務諸表監査	
	the auditor has reason to believe that a		における不正」第12項は、文書及び記録や証	
	document may not be authentic, or may		憑書類が真正ではない、又は、後から変更さ	
	have been modified without that		れているが監査人に開示されていないと疑わ	
	modification having been disclosed to the		れる状況を扱っている。	
	auditor.14		4で金人生は女といる。	
	¹⁴ ISA 240, "The Auditor's Responsibilities Relating to			
	Fraud in an Audit of Financial Statements,"			
	paragraph 13.			
	Reliability of Information Produced by a		《(2) 経営者の利用する専門家が作成した情	
	Management's Expert (Ref: Para. 8)		報の信頼性》(第7項参照)	
8. If information to be used as audit evidence	A34. The preparation of an entity's financial	7. 監査人は、監査証拠として利用する情報が	A34. 企業の財務諸表の作成には、保険数理計	
has been prepared using the work of a	statements may require expertise in a field	経営者の利用する専門家の業務により作成さ	算、評価、技術データなど、会計又は監査以	
management's expert, the auditor shall, to	other than accounting or auditing, such as	れている場合には、監査人の目的に照らして	外の分野における専門知識が必要なことがあ	
the extent necessary, having regard to the	actuarial calculations, valuations, or	当該専門家の業務の重要性を考慮して、必要	る。企業は、財務諸表を作成する目的で必要	
significance of that expert's work for the	engineering data. The entity may employ or	な範囲で以下の手続を実施しなければならな	な専門知識を得るために、このような分野の	

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
(a) Evaluate the competence, capabilities and	needed expertise to prepare the financial	い。 (A34 項から A36 項参照)	専門家を雇用し、又はこのような分野の専門	
objectivity of that expert; (Ref: Para. A37-A43)	statements. Failure to do so when such	(1) 経営者の利用する専門家の適性、能力及び	家に依頼することにより業務に従事させるこ	
(b) Obtain an understanding of the work of that	expertise is necessary increases the risks of	客観性を評価すること (A37 項から A43 項	とがある。	
expert; and (Ref: Para. A44-A47)	material misstatement.	参照)		
(c) Evaluate the appropriateness of that expert's work as audit evidence for the relevant	A35. When information to be used as audit	(2) 経営者の利用する専門家の業務を理解する	A35. 監査証拠として利用する情報が経営者の利	
assertion. (Ref: Para. A48)	evidence has been prepared using the work of a management's expert, the requirement	こと(A44 項から A47 項参照)	用する専門家の業務により作成された場合、	
,	in paragraph 8 of this ISA applies. For	(3) 経営者の利用する専門家の業務について、	第7項の規定が適用される。例えば、観察可 能な市場が存在しない有価証券の公正価値の	
	example, an individual or organization may	監査証拠としての適切性を関連するアサー	能な中場が存在しない有価証券の公正価値の 評価モデルの適用において、個人又は組織が	
	possess expertise in the application of	ションに照らして評価すること(A48 項参	専門知識を有していることがある。企業の財	
	models to estimate the fair value of	照)	務諸表の作成に用いる見積りを算定するに当	
	securities for which there is no observable		たって個人又は組織の専門知識を用いる場	
	market. If the individual or organization applies that expertise in making an		合、当該個人又は組織は経営者の利用する専	
	estimate which the entity uses in preparing		門家となり第7項が適用される。一方、企業	
	its financial statements, the individual or		が独自の見積方法において、個人又は組織に	
	organization is a management's expert and		より提供される取引に関する価格データを使	
	paragraph 8 applies. If, on the other hand,		用しているだけの場合、当該情報を監査証拠	
	that individual or organization merely		として利用するならば第6項が適用され、デ	
	provides price data regarding private transactions not otherwise available to the		一夕を提供している個人又は組織は経営者の	
	entity which the entity uses in its own		利用する専門家には該当しない。	
	estimation methods, such information, if			
	used as audit evidence, is subject to			
	paragraph 7 of this ISA, but is not the use of			
	a management's expert by the entity.			
	A36. The nature, timing and extent of audit		A36. 第7項で記載されている要求事項に関連し	
	procedures in relation to the requirement in paragraph 8 of this ISA, may be affected by		て、実施する監査手続の種類、時期及び範囲 は、例えば、以下の事項に影響される。	
	such matters as:		は、例えば、以下の事項に影響される。 ・ 経営者の利用する専門家が関係する事項	
	· The nature and complexity of the matter		の性質と複雑性	
	to which the management's expert		 対象となる事項における重要な虚偽表示 	
	relates.		リスク	
	• The risks of material misstatement in		・ 監査証拠の代替的な情報源の利用可能性	
	the matter. The availability of alternative sources of		・経営者の利用する専門家の業務の内容、	
	audit evidence.		範囲及び目的	
	The nature, scope and objectives of the		・ 経営者の利用する専門家は企業に雇用さ	
	management's expert's work.		れているか、又は企業の依頼により業務に	
	· Whether the management's expert is		従事し関連するサービスを提供している	
	employed by the entity, or is a party		か。	
	engaged by it to provide relevant services.		・ 経営者の利用する専門家の業務に対し	
	• The extent to which management can		て、経営者が支配又は影響を及ぼすことが	
	exercise control or influence over the work of the management's expert.		可能な程度	
	· Whether the management's expert is		・経営者の利用する専門家が、関連する専	
	subject to technical performance		門的な業務実施基準、又は他の職業的専門	
	standards or other professional or		家としての規定や業界の規定に従っている	
	industry requirements		かどうか。経営者の利用する専門家の業務に対して	
	The nature and extent of any controls		・ 経営者の利用する専門家の業務に対して 適用される企業の内部統制の性質と範囲	
	within the entity over the management '		経営者の利用する専門家の専門分野に対	
	s expert's work. • The auditor's knowledge and experience		する監査人の知識と経験	
	of the management's expert's field of		・ 当該専門家の業務に関する監査人の過去	
	expertise.		の経験	
	· The auditor's previous experience of the			
	work of that expert.			
	The Competence, Capabilities and Objectivity		《経営者の利用する専門家の適性、能力及び	
	of a Management's Expert (Ref: Para. 8(a))		客観性》 (第7項(1)参照)	
	A37. Competence relates to the nature and		A37. 適性は、経営者の利用する専門家の専門知	
	level of expertise of the management's		識の内容と水準に関係している。能力は、経	
	expert. Capability relates the ability of the		営者の利用する専門家が個々の状況において	
	management's expert to exercise that		その適性を発揮できるかどうかに関係してい	
	competence in the circumstances. Factors	I		

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
,	that influence capability may include, for		る。能力に影響を与える要因には、例えば、	
	example, geographic location, and the		所在地、時間や要員の利用可能性を含むこと	
ļ	availability of time and resources.		がある。客観性は、経営者の利用する専門家	
ļ	Objectivity relates to the possible effects		の職業的専門家としての判断又は経営判断に	
ļ	that bias, conflict of interest or the influence		対して、中立性の欠如、利益相反の有無又は	
,	of others may have on the professional or		その他の事項が与える潜在的影響に関係して	
,	business judgment of the management's		いる。経営者の利用する専門家の適性、能力	
ļ	expert. The competence, capabilities and		及び客観性、並びに専門家の業務に関する企	
,	objectivity of a management's expert, and		業内の内部統制は、経営者の利用する専門家	
,	any controls within the entity over that		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
ļ	expert's work, are important factors in		が作成する情報の信頼性に影響を与える重要	
ļ	relation to the reliability of any information		な要因となる。	
ļ	produced by a management's expert.			
ļ	A38. Information regarding the competence,		A38. 経営者の利用する専門家の適性、能力及び	
ļ	capabilities and objectivity of a		客観性に関する情報は、以下のような様々な	
ļ	management's expert may come from a		情報源によってもたらされることがある。	
ļ	variety of sources, such as:		・ 当該専門家が以前に提供した業務を監査	
ļ	· Personal experience with previous work		人が利用した経験	
ļ	of that expert.			
ļ	· Discussions with that expert.		・ 当該専門家との協議*********************************	
ļ	· Discussions with others who are familiar		・ 当該専門家の業務に精通している者との	
ļ	with that expert's work.		協議	
ļ	· Knowledge of that expert's qualifications,		・ 当該専門家の資格、専門家団体又は業界	
ļ	membership of a professional body or		団体への加入状況、開業免許等についての	
ļ	industry association, license to practice,		情報	
ļ	or other forms of external recognition.		・ 当該専門家が公表した論文又は著作物	
ļ	· Published papers or books written by		 経営者の利用する専門家が作成した情報 	
ļ				
ļ	that expert.		に関して十分かつ適切な監査証拠を入手す	
ļ	An auditor 's expert, if any, who assists		るために、監査人の利用する専門家が関係	
ļ	the auditor in obtaining sufficient		する場合には当該専門家	
	appropriate audit evidence with respect to			
	information produced by the			
,	management 's expert.			
,	A39. Matters relevant to evaluating the		A39. 経営者の利用する専門家の適性、能力及び	
ļ	competence, capabilities and objectivity of a		客観性の評価に関連する事項には、専門家の	
ļ	management's expert include whether that		業務が専門的な業務実施基準又は他の職業的	
ļ	expert's work is subject to technical		専門家としての規定や業界の規定(例えば、	
ļ	performance standards or other professional		専門家団体又は業界団体の倫理規則及びその	
ļ	or industry requirements, for example,		他会員が遵守すべき規定、資格認定団体によ	
ļ	ethical standards and other membership		る認定基準、又は法令が課す規定)に従って	
ļ	requirements of a professional body or		いるかどうかを評価することが含まれる。	
ļ	industry association, accreditation		・ *** ** こ ノル と目 リ る こ こ ハ* 白 よれ レ る。	
ļ	standards of a licensing body, or			
ļ	requirements imposed by law or regulation.			
ļ	A40. Other matters that may be relevant		A40. 上記の他に経営者の利用する専門家の評価	
ļ	include:		に際して考慮する事項には、以下の事項が含	
ļ	• The relevance of the management 's		まれる。	
ļ	expert's competence to the matter for		・ 専門家の業務を利用しようとしている事	
ļ	which that expert 's work will be used,		項に対する、専門家の特定領域における能	
ļ	including any areas of specialty within		力を含む、当該専門家の適性の適合性(例	
ļ	that expert 's field. For example, a			
ļ	particular actuary may specialize in		えば、保険数理人によっては、損害保険を	
ļ	property and casualty insurance, but have		専門に扱ってはいるが、年金数理計算に関	
ļ	limited expertise regarding pension		しては限られた専門知識しか持っていない	
ļ	calculations.		ことがある。)	
ļ	• The management's expert's competence		・ 会計上要求される事項に関する専門家の	
ļ	with respect to relevant accounting		適性(例えば、適用される財務報告の枠組	
ļ	requirements, for example, knowledge of		みに準拠している仮定と方法、及び利用し	
ļ	assumptions and methods, including		ている場合はモデルに関連する知識)	
ļ	models where applicable, that are		・ 当初の評価の再検討の必要性(予期しな	
Į.				
ı	consistant with the applicable financial		い出来事、状況の変化、又は監査手続の結	
	consistent with the applicable financial			
	reporting framework.		果入手した監査証拠により、監査が進行す	

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	from the results of audit procedures indicate that it may be necessary to reconsider the initial evaluation of the competence, capabilities and objectivity of the management's expert as the audit progresses.		あることを示唆しているかどうか。)	
	A41. A broad range of circumstances may threaten objectivity, for example, self-interest threats, advocacy threats, familiarity threats, self-review threats and intimidation threats. Safeguards may reduce such threats, and may be created either by external structures (for example, the management's expert's profession, legislation or regulation), or by the management's expert's work environment (for example, quality control policies and procedures). A42. Although safeguards cannot eliminate all threats to a management's expert's objectivity, threats such as intimidation threats may be of less significance to an expert engaged by the entity than to an expert employed by the entity, and the effectiveness of safeguards such as quality control policies and procedures may be		A41. 様々な状況 (例えば、自己利益、擁護、馴れ合い、自己レビュー及び不当なプレッシャーを受ける脅威の阻害要因) によって、専門家の客観性が阻害されることがある。阻害要因はセーフガードによって軽減されることがあり、セーフガードは、外的仕組み (例えば、経営者の利用する専門家の所属する専門家団体、法律、又は規制) 又は経営者の利用する専門家の業務環境 (例えば、品質管理の方針及び手続) によって、設定されることがある。 A42. セーフガードによって経営者の利用する専門家の客観性に対する阻害要因のすべてが除去できないが、専門家が企業に雇用されている場合よりも企業の依頼により業務に従事している場合の方が、阻害要因 (例えば、不当なプレッシャーを受ける脅威など) の程度が低いことがあり、また、セーフガード (例えば、スケン・カースで表して、スケン・カースで表して、スケン・カースで表して、スケン・カースで表して、スケン・カースで表して、スケン・カースで表して、スケン・カーを受ける有威など) の程度が低いことがあり、また、セーフガード (例えば、スケン・カースで表して、スケン・オースで表して、スケン・カースで表して、スケン・スケン・カースで表して、スケン・スケン・スケン・スケン・スケン・スケン・スケン・スケン・スケン・スケン・	
	greater. Because the threat to objectivity created by being an employee of the entity will always be present, an expert employed by the entity cannot ordinarily be regarded as being more likely to be objective than other employees of the entity.		ば、品質管理の方針及び手続)の有効性が高いことがある。企業の従業員であることによって生じる客観性に対する阻害要因は常に存在するため、企業に雇用されている専門家は、通常、当該企業の他の従業員に比べて高い客観性を有しているとみなすことはできない。	
	A43. When evaluating the objectivity of an expert engaged by the entity, it may be relevant to discuss with management and that expert any interests and relationships that may create threats to the expert's objectivity, and any applicable safeguards, including any professional requirements that apply to the expert; and to evaluate whether the safeguards are adequate. Interests and relationships creating threats may include: • Financial interests. • Business and personal relationships. • Provision of other services.		A43. 企業の依頼により業務に従事している専門家の客観性を評価する場合、当該専門家の客観性に対する阻害要因となり得る利害関係や、客観性に対する阻害要因を軽減するセーフガードとして当該専門家に適用される職業的専門家の規定等について経営者及び当該専門家と協議することや、そのようなセーフガードが十分であるかを評価することが適切なことがある。阻害要因となり得る利害関係には以下のものを含むことがある。 ・ 経済的利害関係・ 事業上及び個人的な関係・ 他のサービスの提供	
	Obtaining an Understanding of the Work of the Management's Expert (Ref: Para. 8(b)) A44. An understanding of the work of the management's expert includes an understanding of the relevant field of expertise. An understanding of the relevant field of expertise may be obtained in conjunction with the auditor's		《経営者の利用する専門家の業務についての理解》(第7項(2)参照) A44. 経営者の利用する専門家の業務についての理解には、専門分野に対する理解が含まれる。専門分野に対する理解は、監査人が経営者の利用する専門家の業務を評価する専門知識を有しているかどうか、又は監査人の利用する専門家を雇用又は依頼により業務に従事	
	determination of whether the auditor has the expertise to evaluate the work of the management's expert, or whether the auditor needs to employ or engage an auditor's expert for this purpose. 15 15 ISA 620, "Using the Work of an Auditor's Expert," paragraph 7. A45. Aspects of the management's expert's		させる必要があるかどうかを判断する際に得られることがある。 A45. 経営者の利用する専門家の専門分野に関	

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	field relevant to the auditor's understanding		し、監査人が理解する必要のある事項には、	
	may include:		以下のものを含むことがある。	
	· Whether that expert's field has areas of		・ 専門家の専門分野が監査に関連する特定	
	specialty within it that are relevant to the		領域を含むかどうか。	
	audit.		・ 職業的専門家としての基準等及び法令等	
	· Whether any professional or other		が適用されているかどうか。	
	standards, and regulatory or legal		・どのような仮定及び方法が経営者の利用	
	requirements apply.		する専門家によって採用されているか、及	
	· What assumptions and methods are used		びそれらの仮定及び方法が専門家の専門分	
	by the management's expert, and whether			
	they are generally accepted within that		野において一般に認められており、財務報	
	expert's field and appropriate for financial		告目的にとって適切であるかどうか。	
	reporting purposes.		・ 専門家が使用する内外のデータ又は情報	
	· The nature of internal and external data		の性質	
	or information the auditor's expert uses.			
	A46. In the case of a management's expert		A46. 経営者が専門家に依頼して業務に従事させ	
	engaged by the entity, there will ordinarily		ている場合、通常、企業と当該専門家との間	
	be an engagement letter or other written		で、契約書やその他の合意文書が取り交わさ	
	form of agreement between the entity and		れている。経営者の利用する専門家の業務を	
	that expert. Evaluating that agreement		理解する際に当該契約を検討することは、監	
	when obtaining an understanding of the		査人が、監査人の目的に照らして、以下の事	
	work of the management's expert may assist		項の適切性を判断することに役立つことがあ	
	the auditor in determining the			
	appropriateness of the following for the		る。 東明字の光弦の内容。然岡及び日始	
	auditor's purposes:		・専門家の業務の内容、範囲及び目的	
	· The nature, scope and objectives of that		・ 経営者及び専門家のそれぞれの役割と責	
	expert's work;		任	
	· The respective roles and responsibilities		・ 専門家が提出する報告書の様式を含め、	
	of management and that expert; and		経営者と専門家との間のコミュニケーショ	
	· The nature, timing and extent of		ンの内容、時期及び範囲	
	communication between management and			
	that expert, including the form of any			
	report to be provided by that expert.			
	A47. In the case of a management's expert		A47. 経営者の利用する専門家が企業により雇用	
	employed by the entity, it is less likely there		されている場合、業務内容を記載した契約書	
	will be a written agreement of this kind.		に相当する文書が存在する可能性は少ない。	
	Inquiry of the expert and other members of		監査人が必要とする理解を得るには、専門家	
	management may be the most appropriate		及び経営者に対する質問が最適な方法となる	
	way for the auditor to obtain the necessary			
	understanding.		ことがある。	
	Evaluating the Appropriateness of the		《経営者の利用する専門家の業務の適切性の	
	Management's Expert's Work (Ref: Para. 8(c))		評価》(第7項(3)参照)	
			* **	
	A48. Considerations when evaluating the		A48. 関連するアサーションについての監査証拠	
	appropriateness of the management's		として、経営者の利用する専門家の業務の適	
	expert's work as audit evidence for the		切性を評価するに当たって、例えば、以下の	
	relevant assertion may include:		事項を検討する。	
	The relevance and reasonableness of that		専門家の指摘事項又は結論の適合性や合	
	expert's findings or conclusions, their		理性、他の監査証拠との整合性、及びそれ	
	consistency with other audit evidence,		らが財務諸表に適切に反映されていること	
	and whether they have been		・ 専門家の業務に重要な仮定及び方法が採	
	appropriately reflected in the financial		用されている場合には、それらの仮定及び	
	statements;		方法の適合性と合理性	
	If that expert's work involves use of			
	significant assumptions and methods, the		・専門家の業務に基礎データが多用されて	
	relevance and reasonableness of those		いる場合には、当該基礎データの目的適合	
	assumptions and methods; and		性、網羅性及び正確性	
	· If that expert's work involves significant			
	use of source data the relevance,			
	completeness, and accuracy of that source			
	data.			
	Information Produced by the Entity and Used		《(3) 監査人が利用する企業が作成した情	
	for the Auditor's Purposes (Ref: Para. 9(a)-(b))		報》(第8項(1)から(2)参照)	
9. When using information produced by the	A49. In order for the auditor to obtain reliable	8. 監査人は、企業が作成した情報を利用する	A49. 監査人が証明力の強い監査証拠を入手する 1	11. 企業が作成した情報を監査人が監査手続に

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
entity, the auditor shall evaluate whether the	audit evidence, information produced by the	報口音 【安水争場寺】 場合には、当該情報が監査人の目的に照らし	[週7月11] ためには、監査手続に利用する企業が作成し	利用する場合、監査人は、情報の正確性及び
information is sufficiently reliable for the	entity that is used for performing audit	場合には、ヨ該情報が監査人の目的に思らして十分に信頼性を有しているかどうかを評価	た情報の正確性及び網羅性が十分である必要	利用する場合、監査人は、情報の正確性及び 網羅性に関する監査証拠を入手しなければな
auditor's purposes, including as necessary in	procedures needs to be sufficiently complete	しなければならない。これには、個々の状況	がある。例えば、標準価格を販売数量の記録	が確比に関する血血腫をハチしなりがなならない。
the circumstances:	and accurate. For example, the	において必要な以下の事項が含まれる。	に適用して実施する収益に対する監査手続の	証明力のある監査証拠を入手するために
(a) Obtaining audit evidence about the	effectiveness of auditing revenue by	(1)企業が作成した情報の正確性及び網羅性に	有効性は、当該標準価格情報と販売数量デー	は、監査手続で利用する情報は正確で、か
accuracy and completeness of the	applying standard prices to records of sales		タの正確性に依存する。同様に、監査人が、	つ、網羅的である必要がある。例えば、標準
information; and (Ref: Para. A49-A50)	volume is affected by the accuracy of the	関する監査証拠を入手すること(A49項か	ある一定の属性(例えば、承認の有無)に関	価格に販売数量を掛け合わせて売上高の監査
(b) Evaluating whether the information is	price information and the completeness and	ら A50 項参照) (2) 企業が作成した情報が監査人の目的に照ら	して、ある母集団(例えば、支払取引)をテ	を行う場合、監査人は、価格情報が正確であ
sufficiently precise and detailed for the	accuracy of the sales volume data. Similarly,	(2) 企業が作成した情報が監査人の目的に思ら して十分に正確かつ詳細であるかどうかを	ストしようとする場合、テスト対象の項目を	ること及び販売数量データが正確かつ網羅的
auditor's purposes. (Ref: Para. A51)	if the auditor intends to test a population (for example, payments) for a certain	評価すること(A51 項参照)	抽出した母集団が網羅的でない場合には、テ	であることを考慮する。
	characteristic (for example, authorization),	計画すること(ASI 項参照)	スト結果は証明力が弱いものとなる。	企業の情報システムによって作成された情
	the results of the test will be less reliable if			報の正確性及び網羅性に関する監査証拠の入
	the population from which items are			手、並びにその情報を利用して実施する監査
	selected for testing is not complete.			手続による監査証拠の入手は、ある監査手続
	A50. Obtaining audit evidence about the		A50. 情報の正確性及び網羅性についての監査証	を実施することによって同時に可能となるこ
	accuracy and completeness of such		拠を入手するための監査手続が当該情報を利	とがある。また、監査人は、情報の作成及び
	information may be performed concurrently		用した監査手続と不可分である場合、情報の	保存に係る内部統制のテストによって、情報
	with the actual audit procedure applied to		正確性及び網羅性についての監査証拠は、当	の正確性及び網羅性に関する監査証拠を入手
	the information when obtaining such audit evidence is an integral part of the audit		該情報を利用した監査手続の実施と同時に入	できることがある。しかし、監査人は、状況
	procedure itself. In other situations, the		手されることがある。その他の状況では、監	に応じて監査手続を追加して実施することが
	auditor may have obtained audit evidence of		査人は、情報の作成と管理に関する内部統制	必要であると判断する場合もある。例えば、
	the accuracy and completeness of such		の運用評価手続を実施することによって、当	このような手続には情報の再計算のためのコ
	information by testing controls over the		該情報の正確性及び網羅性についての監査証	ンピュータ利用監査技法(CAAT)の利用が
	preparation and maintenance of the		拠を入手することもある。しかしながら、あ	含まれる。
	information. In some situations, however,		る状況では、監査人は追加的な監査手続が必	
	the auditor may determine that additional		要であると判断することもある。	
	audit procedures are needed.			
	A51. In some cases, the auditor may intend to		A51. また、監査人は、企業が作成した情報を監	
	use information produced by the entity for other audit purposes. For example, the		査の目的のために利用しようとする場合があ スータング 野本 Lは、 企業が実体 L た業体	
	auditor may intend to make use of the		る。例えば、監査人は、企業が実施した業績 の測定を分析的手続のために利用したり、又	
	entity's performance measures for the		は内部監査報告書のように、統制活動を監視	
	purpose of analytical procedures, or to make		するために企業が作成した情報を利用しよう	
	use of the entity's information produced for		とすることがある。そのような場合、入手し	
	monitoring activities, such as internal		た監査証拠の適切性は、その情報が監査人の	
	auditor's reports. In such cases, the		目的に照らして、十分に正確又は詳細である	
	appropriateness of the audit evidence		かどうかにより影響を受ける。例えば、経営	
	obtained is affected by whether the information is sufficiently precise or		者が利用した業績の測定は、重要な虚偽表示	
	detailed for the auditor's purposes. For		を発見するには十分に正確ではないことがあ	
	example, performance measures used by		る。	
	management may not be precise enough to			
	detect material misstatements.			
Selecting Items for Testing to Obtain Audit	Selecting Items for Testing to Obtain Audit	《3.監査手続の対象項目の抽出》	《監査手続の対象項目の抽出》 (第9項参	
Evidence	Evidence (Ref: Para. 10)		照)	
10. When designing tests of controls and	A52. An effective test provides appropriate	9. 監査人は、内部統制の運用評価手続及び詳	A52. 有効な監査手続は、入手済み又は入手予定	[監査基準委員会報告書第9号]
tests of details, the auditor shall determine	audit evidence to an extent that, taken with	細テストを立案する際には、監査手続の対象	の他の監査証拠と合わせて、監査手続の目的	2. 監査手続の実施に際して、監査人は、原則
means of selecting items for testing that are	other audit evidence obtained or to be	項目について監査手続の目的に適う有効な抽	を十分に満たす適切な監査証拠を提供する。	として試査によって十分かつ適切な監査証拠
effective in meeting the purpose of the audit	obtained, will be sufficient for the auditor's	出方法を決定しなければならない。(A52項	監査手続の対象項目の抽出に当たって、第6	を入手する。十分かつ適切な監査証拠は、統
procedure. (Ref: Para. A52-A56)	purposes. In selecting items for testing, the	から A56 項参照)	項は監査人が監査証拠として利用する情報の	制評価手続又は実証手続の実施過程において
	auditor is required by paragraph 7 to determine the relevance and reliability of		適合性と信頼性について判断することを要求	入手される。試査による場合には、監査人
	information to be used as audit evidence;		している。一方、監査手続の対象となる項目	は、母集団からその一部の項目を抽出して監
	the other aspect of effectiveness (sufficiency)		を抽出するに当たっては、他の側面(十分	査手続を実施する。また、精査による場合に
	is an important consideration in selecting		性)も重要な検討事項である。監査人が利用	は、母集団からそのすべての項目を抽出する
	items to test. The means available to the		可能な、監査手続の対象項目の抽出方法に	ことになるが、抽出を伴うという点において
	auditor for selecting items for testing are:		は、以下のものがある。	は試査と同様である。
	(a) Selecting all items (100% examination);		(1) 精査(100%の検討)	これに対して、抽出を伴わない十分かつ適
	(b) Selecting specific items; and		(2) 特定項目抽出による試査	切な監査証拠の入手方法もある。例えば、分
	(c) Audit sampling.		(3) 監査サンプリングによる試査	析的手続、質問等の監査手続は、試査又は精
	The application of any one or combination of these means may be appropriate depending		これらの方法のうちどの方法又はどのよう	査によって、その母集団から抽出した個々の
	on the particular circumstances, for		な組合せが適切かどうかは、特定の状況によ	項目に対して実施される場合もあるが、項目
	on the particular circumstances, for			

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	example, the risks of material misstatement related to the assertion being tested, and the practicality and efficiency of the different means.		って異なるが、例えば、アサーションに関連する重要な虚偽表示リスクやそれぞれの方法の実行可能性と効率性などによる。	の抽出を行わずに母集団全体に対して実施されることもある。 3. 十分かつ適切な監査証拠の入手方法は、次のように分類することができる。 (1) 項目の抽出を伴う十分かつ適切な監査証拠の入手方法 精査 武査 ア. サンプリングによる試査 イ. 特定項目抽出による試査 イ. 特定項目抽出による試査 (2) 項目の抽出を伴わない十分かつ適切な監査証拠の入手方法 4. 前項に挙げられた方法のうちどの方法を採用するか、また、それらを組み合わせて使うかどうかは、監査人が、監査リスクの水準と監査の効率性を考慮して決定する。監査人は、十分かつ適切な監査証拠を入手するために効果的かつ効率的な方法を選択しなければならない。
	Selecting All Items		《(4) 精査》	ならない。
	A53. The auditor may decide that it will be most appropriate to examine the entire population of items that make up a class of transactions or account balance (or a stratum within that population). 100% examination is unlikely in the case of tests of controls; however, it is more common for tests of details. 100% examination may be appropriate when, for example: The population constitutes a small number of large value items; There is a significant risk and other means do not provide sufficient appropriate audit evidence; or The repetitive nature of a calculation or other process performed automatically by an information system makes a 100% examination cost effective.		A53. 監査人は、取引種類又は勘定残高を構成している項目の母集団全体(又は当該母集団における階層)を検討することが最も適切であると判断することがある。精査は、内部統制の運用評価手続には通常適用しない。しかしながら、詳細テストにおいては、用いられることがある。精査は、例えば、以下のいずれかの場合に適切であることがある。 ・ 母集団が少数の金額的に大きい項目から構成されている場合・ 特別な検討を必要とするリスクが存在する場合で、他の方法では十分かつ適切な監査証拠を入手することができない場合・ 情報システムによって自動的に行われる反復的な性質の計算等、精査が費用対効果の高い方法である場合	5. 精査とは、特定の監査手続の実施に際して、母集団からそのすべての項目を抽出して、それに対して監査手続を実施することである。精査は、母集団が少数の金額的に重要な項目から構成されている場合や、固有リスクと統制リスクの程度がともに高く、精査以外の方法では十分かつ適切な監査証拠を入手し得ないと判断される場合などに適合する。
	Selecting Specific Items		《(5) 特定項目抽出による試査》	
	A54. The auditor may decide to select specific items from a population. In making this decision, factors that may be relevant include the auditor's understanding of the entity, the assessed risks of material misstatement, and the characteristics of the population being tested. The judgmental selection of specific items is subject to nonsampling risk. Specific items selected may include: • High value or key items. The auditor may decide to select specific items within a population because they are of high value, or exhibit some other characteristic, for example, items that are suspicious, unusual, particularly risk-prone or that have a history of error. • All items over a certain amount. The auditor may decide to examine items whose recorded values exceed a certain amount so as to verify a large proportion of the total amount of a class of transactions or account balance.		A54. 監査人は、母集団から特定項目を抽出することを決定することがある。この決定をするに当たって、監査人は、企業の理解、評価した重要な虚偽表示リスク、及びテストする母集団の特性などを考慮する。監査人の判がリスクを伴う。抽出される特定項目には、以下のものを含むことがある。 ・ 高額の項目又は他の特性を示す項目監査人は、扇額の項目、又は他の事性を示す項目、不可項目、対域のある項目、又は明認の発生した項目がある。中から特定項目として抽出することを決定することがある。 ・ 一定金額以上のすべての項目監査人は、取引種類と対するため、一定金額を超える項目を試査することを決定することがある。 ・ 情報を入手するための項目	[監査基準委員会報告書第9号] 14. 特定項目抽出による試査を適用する場合には、監査人は、ある監査要点に関連する虚偽の表示が含まれているかを直接的に真理を知り、会議の重要な項目、潜在的に誤謬をすると、金額の重要な項目、潜存在するとで、をででででであるがある。までででででである。までは、金額の高いでででである。までは、の表別があるでは、あいるでは、というなどの判断によるは、からは、監査というながは、に対して、あいるでは、、のに、には、ないのは、には、ないのは、には、ないのは、ないのは、ないのは、ないのは、ないのは、ないのは、ないのは、ないの

Clarity版 ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc] Items to obtain information. The auditor may examine items to obtain information about matters such as the nature of the entity, or the nature of transactions.	報告書 [要求事項等]	[適用指針] 監査人は、企業の特徴又は取引の性質などの情報を入手するために、項目を検討することがある。	主な現行の監査実務指針 ためである。 17. 特定項目加出による試査において、監査人は、分を項目加出による試査において、監査人は、分を選目団に対してに法というな無を含むな無をする。このられるとは、現るである。このられるとは、関してに法というでは、場では、のである。このられるとのである。このられるとのでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般
				リングによる試査を適用することが適当である。 24. 特定項目抽出リスクは、特定項目抽出によ

Clarity版ISA [Requirement etc]	[Application etc]	報告書 [要求事項等]	[適用指針]	主な現行の監査実務指針
	A55. While selective examination of specific		A55. 取引種類又は勘定残高から特定項目を抽出	認について判断を誤ったこと、非抽出項目に対して実施された他の監査手続が非抽出項目について誤った結論を導いたことなどがある。 [監査基準委員会報告書第9号]
	items from a class of transactions or account balance will often be an efficient means of obtaining audit evidence, it does not constitute audit sampling. The results of		する試査は、監査証拠を入手する効率的な方 法ではあるが、それは監査サンプリングによ る試査には該当しない。この方法によって抽	(現行 14 項。なお、該当文章は報告書の A54 項 の右列)
	audit procedures applied to items selected in this way cannot be projected to the entire population; accordingly, selective examination of specific items does not provide audit evidence concerning the remainder of the population.		出した項目に対して実施した監査手続の結果 からは、母集団全体にわたる一定の特性を推 定することはできない。したがって、特定項 目抽出による試査は、母集団の中から抽出さ れない母集団の残余部分に関する監査証拠を 提供しない。	15. 特定項目抽出による試査においては、監査人は、母集団の中から特定項目として抽出されない項目に対しては、特定項目に対して実施する監査手続を実施しない。ただし、抽出されない項目に重要性がある場合には、それらの項目に重要な誤謬が含まれている可能性が無視できるほど低いと考えられる場合を除いて、分析的手続等の他の監査手続を実施し、その結果と特定項目抽出による試査の結
				果を総合的に勘案して母集団全体についての結論を形成する必要がある。
	Audit Sampling		《(6) 監査サンプリングによる試査》	
	A56. Audit sampling is designed to enable conclusions to be drawn about an entire population on the basis of testing a sample drawn from it. Audit sampling is discussed in ISA 530 ¹⁶		A56. 監査サンプリングによる試査は、監査基準 委員会報告書 530「監査サンプリング」により、母集団からその一部の項目を抽出してテストすることによって、母集団全体に関する 結論を導き出すことができるように立案する。	[監査基準委員会報告書第9号] 11. サンプリングによる試査においては、監査人は、母集団からその一部の項目をサンプルとして抽出し、それに対して実施した監査手続の結果から母集団全体の一定の特性を推定することにより当該母集団に関する結論を形成する。例えば、ある勘定残高の監査において、サンプルに対する監査手続の実施結果から発見された誤謬金額は、一定の条件の下に母集団全体の誤認金額の推定のために利用されなければならない。
Inconsistency in, or Doubts over Reliability of, Audit Evidence	Inconsistency in, or Doubts over Reliability of, Audit Evidence (Ref: Para. 11)	《4. 監査証拠における矛盾又は証明力に関す る疑義》	《3. 監査証拠における矛盾又は証明力に関する疑義》(第10項参照)	40.8174018.8.2.84 0
11. If: (a) audit evidence obtained from one source is inconsistent with that obtained from another; or (b) the auditor has doubts over the reliability of information to be used as audit evidence, the auditor shall determine what modifications or additions to audit procedures are necessary to resolve the matter, and shall consider the effect of the matter, if any, on other aspects of the audit. (Ref: Para. A57)	A57. Obtaining audit evidence from different sources or of a different nature may indicate that an individual item of audit evidence is not reliable, such as when audit evidence obtained from one source is inconsistent with that obtained from another. This may be the case when, for example, responses to inquiries of management, internal audit, and others are inconsistent, or when responses to inquiries of those charged with governance made to corroborate the responses to inquiries of management are inconsistent with the response by management. ISA 230 includes a specific documentation requirement if the auditor identified information that is inconsistent with the auditor's final conclusion regarding a significant matter.17	10. 監査人は、以下のいずれかの場合、問題を解消するためにどのような監査手続の変更又は追加が必要であるかを判断し、監査の他の側面に与える当該事項の影響があればその影響を考慮しなければならない。(A57項参照) (1) ある情報源から入手した監査証拠が他の情報源から入手した監査証拠と矛盾する場合(2) 監査人が監査証拠として利用する情報の信頼性に関して疑義を抱く場合	A57. 一つの情報源から入手した監査証拠が別の情報源から入手した監査証拠と矛盾する場合など、複数の情報源から監査証拠を入手することや、異なる種類の監査証拠を入手することにより、個々の監査証拠の証明力が低いことが示唆されていることがある。例えば、経営者、内部監査人若しくはその他の者への質問に対する回答が相互に矛盾している場合、又は経営者への質問に対する回答を裏付けるために実施した監査役等への質問に対する回答が経営者の回答と矛盾している場合がある。監査基準委員会報告書230「監査調書」第10項には、監査人が重要な事項に関する最終的な結論と矛盾する情報を識別した場合における文書化に関する要求事項が記載されている。	12. 監査人は、複数の情報源から入手した監査 証拠又は異なる種類の監査証拠が相互に矛盾しない場合には、通常、個々の監査証拠より 高い心証を得られる。一方、複数の情報源から入手した監査証拠又は異なる種類の監査証拠に矛盾がある場合には、証明力がない場合もある。例えば、企業から独立した情報源から入手した情報が裏付けとなる場合、経営者による陳述から得られた心証が一層確かなものになる。しかし、ある情報源から入手した監査証拠が他の情報源から入手した監査証拠と矛盾する場合、監査人はその矛盾を解消するため、どのような監査手続を追加して実施しなければならないかを検討する。
Effective Date		《IV 適用》		
3. This ISA is effective for audits of financial statements for periods beginning on or after December 15, 2009.		本報告書は、平成24年4月1日以後開始する 事業年度に係る監査及び同日以後開始する中 間会計期間に係る中間監査から適用する。		

[&]quot;Copyright © [December, 2011] by the International Federation of Accountants (IFAC). All rights reserved. Used with permission of IFAC. Contact Permissions@ifac.org for permission to reproduce, store or transmit, or to make other similar uses of this document."